

総合目録データベースの移行について

4月以降参加館の皆様の御協力により、オンライン負荷テストを重ねてまいりましたが、11月の負荷テストの結果から、総合目録データベースのサーバへの移行を予定通り、12月に実施することを決定いたしました。平成9年1月よりサーバに移行した総合目録データベースの運用を開始いたします。御協力誠にありがとうございました。

なお、データベースの移行作業のため、目録所在情報システムのサービスを下記の期間休止させていただきます。申し訳ありませんが御理解下さい。

総合目録データベースの移行作業に伴うサービスの休止期間：

平成8 年12月 24日～ 12月27 日

目録所在情報サービスの年末年始の運用スケジュール

～平成8年12月20日（金） 通常運用終了
平成8年12月24日（火）～平成9年 1月 6日（月） 移行作業によるサービス休止
平成9年 1月 7日（火）～ 通常運用開始

総合目録データベースにおける和洋の統合及びVOLによる書誌分割の廃止

現在、総合目録データベースでは、和洋資料を区別して別ファイルとしておりますが、新目録所在情報サービスを開始（平成9年4月予定）するのに併せて、これを統合します。

これに伴い、新たに作成される書誌・所蔵レコードのIDは現行の洋資料の番号体系を継続して一本化されます。ただし、既に付与されたIDについては、そのまま使用します。ローカルシステムに総合目録データベースのデータを取り込む際に、和洋を区別し、かつ、和洋の判断を書誌・所蔵IDにより行っている場合は、プログラムの修正が必要となりますので、御注意下さい。

なお、現行システムを使用する場合は、業務選択画面をはじめ画面上は和洋の区別を残します（ただし、和洋どちらで操作しても、同じデータベースに登録されます）。従って、画面番号により、和洋の判断をしている場合は、特にローカル側プログラムを修正する必要はありません。

IDは「2桁の識別子+7桁(書誌)/9桁(所蔵)の一連番号+チェックディジット」からなり、識別子は以下の通りです。

現行

ファイル	識別子
和図書書誌	B N
洋図書書誌	B A
和図書所蔵	C D
洋図書所蔵	C C
和雑誌書誌	A N
洋雑誌書誌	A A
和雑誌所蔵	C B
洋雑誌所蔵	C A

→

統合後（平成9年4月以降）

ファイル	識別子
図書書誌	B A
図書所蔵	C C
雑誌書誌	A A
雑誌所蔵	C A

また同時に、現在便宜的に行っているVOL数による書誌レコードの分割を廃止します。ただし、VOLが多い場合（VOL数が200程度以上）は、例外的に分割することにします。なお、現在分割されている書誌については、統合します。

これらの変更については、平成8年8月に実施した「新目録所在情報システム業者説明会」席上で各図書館システム作成業者にアンケートを配布し検討していただいた結果、変更について対応可能である旨の回答をいただいています。

基本辞書の変更

目録システムでデータを登録する際に使用している基本辞書のうち、「新字源」については今後使用を中止することにします。

目録システムにおける日本語の外字については、「目録情報の基準」(11.2.1 日本語の外字)の中で3つの辞書を基本辞書として使用することが定められています。目録作成者はこの辞書から該当する文字を探し、辞書の種類を表すコードと検字番号を黒菱形で囲むことによって、日本語の外字を表すことになっています。

これによって、JIS第1,第2水準で表現できない文字も、それぞれの辞書を調べれば記録できなかった文字に辿りつけるわけです。さらに将来、文字の適用範囲が拡張されたときに、この情報を基に本来の文字に変換することも可能です。

この方法は上記の基本辞書の検字番号が不変であり、常に一つの番号が一つの文字を指し示すことが前提です。しかしながら、「新字源」は従来刷によって若干検字番号が異なっているものがありました。平成6年に出版された改訂版でさらに検字番号に異動が生じました(詳細は平成7年度学術情報センターセミナーでこの件を課題として研究した忽那一代氏のレポート「目録システムと外字管理」を参照のこと)*。また今後も同様な事態が発生することが想定されます。

このように「新字源」採用にあたっての問題が看過できなくなりましたので、平成8年度第1回の総合目録小委員会で基本辞書の変更について審議をし、「新字源」の使用を中止するという冒頭の結論となりました。今後日本語の外字が出現した場合、「新字源」は基本辞書として使用しないように御注意ください。

登録されているデータを調査した結果によると、外字のうち「新字源」が指定されている文字は432種、出現回数にして1627回です。このうち「新字源」にしか掲載されていない文字の出現率は約5%であり、残り約95%は他の基本辞書にも掲載されている文字でした。総合目録小委員会では「新字源」にしか掲載されていない文字を救済することを含め、基本辞書に新たに「JIS X0221」を採用することを検討しております。具体的な採用方針が決定し次第、改めて御連絡いたします。

なお、既存データについては、資料現物との確認をとりながら順次修正をセンターで行いますので、このためだけの修正は行う必要はありません。また、この確認にあたっては各参加機関に情報源の御確認とコピー送付等を依頼することもありますので、その際は御協力よろしくお願いたします。

* 「平成7年度学術情報センターセミナー研究レポート」 (1996.3発行)

大学図書館以外で配付を希望される機関は、学術情報センター 教育研修部研修課指導第一係 (TEL:03-3942-6936) にお問合せ下さい。

外部依頼レコード（貸借）の状態変更

I L Lシステムの外部依頼で処理された貸借のレコードは、通常の処理と異なり受付館（BLDSC, NDL）側で返却確認を行わないので「返送」が最終的な状態となり、バックファイルへ移行するまで（半年～1年）業務画面に表示されてきました。しかし、国立国会図書館依頼機能サービスを開始後、該当レコード数が増え、「件数が表示されたままになっているのは紛らわしい」「返却の簡略表示が1画面に収まらないので除いて欲しい」等の要望をいただくようになりましたので、平成8年12月13日より以下のように運用を変更いたします。

なお、この件については、平成8年11月28日よりオンラインニュース画面で予めお伝えしています。

内 容：BLDSCもしくはNDLが受付館になっている貸借レコードで、最終更新日から2週間以上経過し、かつ「返送」状態のものを、NACSISが「返却確認」へ移行する。

移行日：毎月第2, 第4金曜日

注 意：・「返却確認」状態であっても、BLDSCやNDLが返却確認したことを意味しません。

・「返却確認」からのCALLBACKはできませんので、データを修正したい場合は相互協力係（TEL:03-3942-6987,6988）へご連絡ください。

MLTYPの細分化

NACSIS-ILLの所蔵検索では、MLTYPコードを使って図書館種別による絞り込みを行うことができます。現在のコードはN、M、P、Oの4種（表1）ですが、Oにあたる機関が増加してきましたので、平成9年1月の業務開始からMLTYPのコードを表2の様に細分化いたします。

表1 MLTYPコード（現状）

図書館の種類	SETFLG	KFLG	コード
国立大学（短大含む）	1	1	N
		2	
公立大学（短大含む）	2	1	M
		2	
私立大学（短大含む）	3	1	P
		2	
その他	その他の組み合わせ		O

表2 MLTYPコード（変更後）

図書館の種類	SETFLG	KFLG	コード
国立大学（短大含む）	1	1	N
		2	
公立大学（短大含む）	2	1	M
		2	
私立大学（短大含む）	3	1	P
		2	
大学共同利用機関	1	4	I
文部省所轄機関			
高等専門学校	1	3	H
	2		
	3		
都道府県立及び	2	5	S

政令指定都市立図書館			
他省庁の研究機関	1	5	K
その他	その他の組み合わせ		O

新目録所在情報サービス説明会の開催

新目録所在情報システムについての説明会を下記の要領で実施します。

対象地区	会 場	開 催 日	備 考
北海道地区	北海道大学	平成8年11月21日(木)	実施済
東北地区	東北大学	平成9年2月7日(金)	
関東地区	東京医科歯科大学	平成9年1月10日(金)	
甲信越地区	信州大学	平成9年2月21日(金)	
東海地区	名古屋大学	平成9年2月14日(金)	
北陸地区	富山大学	平成9年2月28日(金)	
関西地区	京都大学	平成9年2月21日(金)	
中国・四国地区	岡山大学	平成9年1月31日(金)	
九州・沖縄地区	九州大学	平成9年1月21日(火)	

参加申し込み方法については、既に文書で御案内済みですが、御不明の場合は、事業部目録情報課図書目録情報係（電話：03-3942-6983,6984）までお問い合わせ下さい。

目録情報に関する質問書／回答書検索システムを WWWで公開

目録情報課では、NACSIS-CATを利用して目録作成を行う際に生じる目録情報に関する質問を規定の書式（「目録情報に関する質問書／回答書」）により受け付け、回答を行っております。今回、この「目録情報に関する質問書／回答書」をデータベース化し、World Wide Web上で検索する標記システムのサービスを開始しました。

本システムでは、これまでに寄せられた質問書を、質問内容に基づいてセンターが与えた件名や質問書中のキーワードなどから検索できます。これにより、既に他機関で質問された内容については、センターに問い合わせることなく回答を得ることができます。データは随時追加していく予定ですので、目録業務にお役立て下さい。

目録情報に関する質問書データベース

URL -- <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp>

総合目録小委員会の開催

〔平成8年度第1回総合目録小委員会の開催〕

標記委員会は9月26日(木) 14:00～16:00に開催されました。

今回の委員会では、目録情報関係の事業報告の後、

1. 目録所在情報システムのこれからの計画についての説明
2. 総合目録小委員会の活動計画についての説明
3. 「目録情報の基準」の改訂についての説明
4. 雑誌書誌レコード コーディングマニュアルの作成についての説明
5. 著者名典拠レコード修正指針についての説明
6. 中国語資料の取り扱いの検討についての説明
7. 今後の作業の進め方についての検討

を行いました。

目録所在情報システムのこれからの計画については、新CATのプロトコルCATPの採用の経緯の説明や、新CATで実現される予定の機能等について質疑がありました。

総合目録小委員会の活動計画では、総合目録委員会より付託されている事項として、1)「目録情報の基準の改訂」、2)「コーディングマニュアルの原案作成」、3)「中国語資料の取り扱いの検討」の3点があることが説明されました。

今後の作業の進め方では、上記の付託事項のうち、2)「コーディングマニュアルの原案作成」の部分を「雑誌書誌レコード新規作成記述規則、修正指針の原案作成」と「著者名典拠レコード修正指針、新規作成記述規則(外国名)の原案作成」に分け、全体として4つの班に分けて各々原案の作成、検討を進めることとなりました。「中国語資料の取り扱いの検討」を担当する委員は、同時に本小委員会の下にある「中国語資料データベース化検討WG」のメンバーでもあることから、中国語資料については実質的にはWGで原案が作成され、小委員会で審議されることとなります。

平成8年度の総合目録委員会、総合目録小委員会の委員は以下のとおりです。

総合目録委員会委員名簿

委員名	所属等
上田 修一	慶應義塾大学 文学部教授
勝村 哲也	京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター助教授
近藤 禧 = 男	東京大学附属図書館事務部長
穴戸 寛	東京都立中央図書館資料部收集整理課長
高橋 柏	京都大学附属図書館事務部長
永田 治樹	図書館情報大学図書館情報学部助教授

中国語資料データベース化検討ワーキンググループの審議内容

平成8年度第1回中国語資料データベース化検討ワーキンググループ

日時 : 平成8年10月30日(水) 14:00~17:00

1. 日中目録規則の比較検討について

「日本目録規則」と「普通図書著録規則」との間の相違点等、両目録規則の比較検討を行った。

2. 「中国語資料の取り扱いの検討事項」について

・ 「目的」に関して

中国語資料のデータベース化の意義、目的について意見交換を行った。

「適用する目録規則」に関して

適用する目録規則として「日本目録規則」と「普通図書著録規則」のいずれが適当であるか、検討を行った。

「文字の取り扱い」に関して

転記の原則を適用した場合及び簡体字に統一した場合の問題点について意見交換を行った。あわせて典拠レコードの標目に使用すべき文字についても検討した。

中国語資料データベース化検討ワーキンググループのメンバーは以下のとおりです。

中国語資料データベース化検討ワーキンググループメンバー名簿

メンバー名	所属等
石川 一樹	東京大学大学院法学政治学研究科法学部研究室継続資料班
富田 健市	京都大学附属図書館情報管理課システム管理掛長
西田 元子	国立国会図書館専門資料部アジア資料課主査
村田 康彦	京都大学人文科学研究所東洋学文献センター事務掛
若山 安德	麗澤大学図書館事務長
渡辺 隆弘	神戸大学附属図書館情報サービス課データ管理掛
宮澤 彰	学術情報センター研究開発部教授
越塚 美加	学術情報センター研究開発部助手
大場 高志	学術情報センター事業部目録情報課長補佐
酒井 清彦	学術情報センター事業部目録情報課目録専門員
山岡 規雄	学術情報センター事業部目録情報課図書目録情報係